

# NPO/NGO アジア キッズ ケアだより

【住所】〒791-3131 愛媛県伊予郡松前町北川原 1054-3 【発行者】代表:喜安美紀 【発行日】2011. 10. 10(通巻第8号)  
【HP】<http://www12.plala.or.jp/asian-kids-care/> 【E-mail】[kids@zpost.plala.or.jp](mailto:kids@zpost.plala.or.jp) 【設立】2004. 2. 11  
【TEL】090-5912-4515 【FAX】089-985-0389 【郵便振替】口座番号: 01600-5-13009 口座名義: アジア キッズ ケア  
【ゆうちょ銀行】 店番:169、店名:一六九店、口座番号(当座):0013009、受取人名:アジアキッズケア

少し肌寒さを覚えるようになり、季節は稲刈りや果物などの収穫とともに、実りの秋となりました。

さて、アジアキッズケアは、2011年9月13日をもって、NPO法人としての認証(愛媛県知事)及び設立手続きが完了し、新たなスタートを切りました。一人の子どもの死をきっかけとして、約7年半にわたって、任意団体として支援活動を行う中で、アジアやアフリカの11か国16地域の子どもたちをサポートするようになりました。

今後、より多くの困難な状況にある子どもたちを支援するために、さらに誠実に一步一步継続・前進していきたいと思っております。これからも、日本の支援者の皆様、現地の最前線で活動している現地協力者、留学生(ケニア、マリ、マラウイ、ガーナ、インド、フィリピン等)の方々とともに、子ども支援の思いを共有しつつ、支援のバトンリレーをしっかりと繋いで、アジアやアフリカの子どもたちをサポートしてまいります。

全国の支援者の皆様の暖かいまごころとご支援に感謝しつつ、会報第8号をお届けさせていただきます。

2011. 10. 10

アジアキッズケア代表 喜安 美紀

## フィリピンの離島サランガニの子ども支援 (フィリピン支援報告)

フィリピン支援は、留学生のエドワード氏及び現地協力者のアウレリオ氏(左写真中央)との連携によりスタートしました。エドワード氏(現地大学の准教授)は、自然環境保護に関する博士号取得のために家族(妻と子ども二人)と来日しました。そして、彼の義理の兄弟であるアウレリオ氏(サランガニ区の教育監督・校長・牧師)が関わっている学校や教会の貧しい子どもや孤児たちに対して、サポートを行っています。



2011年1月に、初めて支援物資6箱をミンダナオ島近くの離島サランガニ・ナーサリー村に発送し、約5か月後に現地に届いた物資を子どもたちに配布しました。これらは、学校・教会等で「ハンド to ハンド」で手渡され、子どもたちは笑顔で受け取りました。以下、アウレリオ氏からアジアキッズケアに届いた写真と手紙です。私たちは、こうした現地の信頼できる方々とともに、今後も困難な状況にある子どもたちをサポートしつつ、子どもたちの笑顔を広げていきたいと思っています。その後、2回目の支援物資は、2011.6月に発送しました。



「拝啓、アジアキッズケア様。フィリピンでのアジアキッズケアの熱心なサポート活動に対して、100万人を代表して感謝が言えることは、私たちの名誉と特権です。私たちをサポートしてくださるあなた方の思いやりと善意によって、私たちの心は満たされています。私たちは、6つの箱に入った様々な衣類、文具、靴、毛布、楽器、その他の物を受け取りました。アジアキッズケアのサポートは、フィリピン人の困っている状況の変化に影響をもたらすものです。私たちは、あなた方のことを誇りに思っています。私たちは、祈りを通して、きっと神様が100倍の祝福をもって、あなた方に報いてくださり、あなた方に多くの物を返してくださると、断言することができます。けれども、私たちは、あなた方にお返しとして何も提供することができません。神様があなた方を祝福してくださいませように。アウレリオ」 (現地からの写真画質が少し不鮮明な点をお許しください)

## ケニアの孤児たちに笑顔が見られるようになりました（ケニア支援報告）

ケニアの子ども支援は、留学生のアウィーノ(左上写真)さんと現地協力者の彼の母親プリシラさん（左下写真の一番右）と連携して、エイズ等により両親を失った孤児たちをサポートしています。

アウィーノさんは、ケニア政府の職員ですが、日本の大学院で森林を増やす環境改善を2年間勉強しました。彼は3人の子供の父親でもあり、孤児たちのサポートを真剣に願って、私たちの活動に毎月参加したのです。



ケニアは、貧困・食糧難・病気の蔓延・教育環境の未整備などの問題がありますが、元教師のプリシラさんを通して、支援物資を手渡すとともに、孤児里親支援（生活・教育のための経済的サポート）を行っています。孤児に対して、食物、文具・生活用品等の提供のほか、治療が必要な場合は、病院に連れて行って必要な処置をする等のサポートをしています。アフリカの子どもの死亡率は、日本では考えられないほどの高い現状があります。

プリシラさんは、孤児たちの良き母、良き教師、良き看護婦となり、献身的に彼らを支える中で、彼らに笑顔が見られだしたと写真や手紙を送っていただきました。私たちは、現地の子どもたちの笑顔が、最大の喜びであり、希望でもあります。アウィーノさんは、先月の9月25日に帰国しましたが、今後も母親とともに最前線で孤児支援を推進してまいります。（ケニアには、2010.7月、2011.1月及び6月の3回支援物資を発送）



「NGO アジアキッズケア様。私は、プリシラ・アウィーノ（日本留学中のクリスフィン・アウィーノの母）です。ケニアの現地協力者として、私を選んでくださったことに心からお礼を言います。私は、アジアキッズケアの孤児に対する財政的な援助と、送ってくれた衣服、本、ペン、靴などの支援物資に対して、最大の評価をします。アジアキッズケアの支援によって、私は、孤児や貧困の子供たちに、衣服、学習や遊びのための道具をプレゼントすることができました。そして、今回、彼らの笑顔を見ることができてとてもうれしいです。どうか、孤児たちの支援者の皆様に、私の多大な感謝の気持ちを伝えてください。彼らが今までの人生で受けた全てのもの以上に値する、あなた方の子供たちを助けるサポート活動に心から感謝します。プリシラ・アウィーノより」

## 「留学生と小・中学生等による相互理解と支援の架け橋事業」を実施

昨年度に引き続いて、今年度も(財)愛媛県国際交流協会の助成で「留学生と小・中学生等による相互理解と支援の架け橋事業」を実施しており、留学生(ケニア、マリ、マラウィ、ガーナ、インド、フィリピン等)と一緒に頑張っています。この事業は、留学生と小・中・高校生等との交流を通して、困難な外国の子どもたちの状況を知るとともに、支援物資（文房具、楽器、衣服等）を集めて、現地に送る国際協力・国際支援活動を進めるものです。

また、毎月実施している荷造りボランティア活動においても、留学生から母国の気候・文化・食生活・学校のことなどを教えてもらったり、現地の子どもたちが衣類や文具等を受け取って喜んでいる写真などを見たりした後、日本語と英語が混じった楽しい会話をしながら荷作り作業を行い、まごころ込めて現地に発送しています。

